

2010年度 土木学会 四国支部大会 フォーラム

タイトル:「新たな公」による地域の環境課題解決 - 「みなみから届ける環づくり会議」の実践的挑戦

目的:

「新たな公による地域課題の解決」,「住民との協働」あるいは「民産官学協働」. これらを実現するためには,「Win & Win の関係を築き,皆で楽しみながら進めること」が重要だと言われる. そうした信頼関係を生み出していくためには,背景や仕組みの異なる組織が目標を共有し,協働し,持続的に活動を行っていくための「合意形成とその技術」が必要だ. 活動の方向性や実施後の成果を評価するための「科学的客観性」を担保することも重要だ.

これらを実現するためにはどうしたらいいのかを,「みなみから届ける環づくり会議」における実践を踏まえて考えることが,本フォーラムの目的である.

「環づくり会議」は,徳島県南部域の環境課題の解決に向けて 2006 年に発足した協働体で,8つの民間企業,1つのNPO,2つの研究機関,7つの行政機関からなる. 活動経費は無に等しく,集まった人の知恵だけで始まった活動であるが,目標や手段に関する合意形成を経て,低炭素社会の実現に向けた交通社会実験,水質改善に向けた水質一斉調査を実現してきた. 今,それは,日本の中でも先進的な取り組みとして評価されつつある (<http://hozen-all.lad.jp/ecosystem/wadukuri/top.html>).

「環づくり会議」が経験してきた「楽」と「苦」の報告をもとに,実践に至る過程を検証し,様々な地域において「民産官学協働」「合意形成」「科学的客観性」を実現・活用するための視点や仕組みを,会場参加者と共有したいと思う.

日時:2010年5月15日(土) 13時30分~15時

場所:徳島大学工学部講義棟 6F 創成スタジオ

コーディネーター:大田直友(阿南高専)・鎌田磨人(徳島大)

プログラム

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------|-----|
| 1. 「環づくり会議」とは? | 鎌田磨人(徳島大) | 5分 |
| 2. 「環づくり会議」の出发点 | 古川順啓(徳島県南部総合県民局) | 10分 |
| 3. 合意形成過程の「楽」と「苦」 | 澤田俊明((有)環境とまちづくり) | 10分 |
| 4. 交通社会実験の実践における「楽」と「苦」 | 加藤研二(阿南高専)ほか | 10分 |
| 5. 水質一斉調査の実践における「楽」と「苦」 | 中野良春(日本電工)ほか | 10分 |
| 6. 参加企業の声 | | 15分 |
| (岡田正司(王子製紙),徳永博司(日亜化学),狩野正信(大塚製薬)ほか) | | |
| 7. 環づくり会議の長所と短所 協働における役割分担 | 大田直友(阿南高専) | 10分 |
| 8. 総合討論 - 「新しい公」の作り方 | | |
| 1) コメント | | |
| 池田幸恵(四国EPO),水上雅晴(福山大) | | 15分 |
| 2) 会場質問 | | 15分 |